

魅力あふれる朝倉市へ



新年おめでとうございます。
皆さまには、輝かしい新年を健やかに迎えることと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろからの皆さま方のご支援、ご協力に対し厚く感謝を申し上げます。

昨年の市政運営につきまして、親子と孫が一緒に暮らせる「日本一のふるさと朝倉」づくりを推進していくため、「災害に強い」「安心して暮らせる」「環境を大切に」「産業を盛んにする」「快適で住みよい」「市民サービスの向上と健全財政」の6つのまちづくりの柱を重点施策とし、積極的かつ果敢に取り組んでまいりました。

また、喫緊の課題であり、魅力ある地方の再生の取り組みである「地方創生」につきましては、市の活性化と人口減少対策に向けて、創生会議を設置し、国・県の総合戦略や基本目標との関係をしっかりと整理し、「地方人口ビジョン」および「地方版総合戦略」の策定を進めています。教育・子育て・住宅・福祉・雇用・安心安全・交通など、様々な分野の連携のもと、将来にわたって持続的な地域の創出を目指し、より一層の創意工夫により、地域の特色や地域資源を生かし、活気があり、

魅力あふれる地域づくりを進めていくことが私の使命だと感じており、そのことを総合戦略でお示ししたいと考えております。

さて、朝倉市は、来る3月に3つの市町が合併して10年を迎えます。ふるさと朝倉への愛着と誇りを再認識する機会とし、なお一層の一体感の醸成と、市と市民が一体となつて、安全で安心して暮らせるまちづくりの実現を目指してまいります。課せられた課題は山積していますが、10年先、50年先を見据え、「日本一のふるさと朝倉」を目指し、今まで以上の努力をしてまいり所存でありますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。謹んで新年のあいさつとさせていただきます。

平成二十八年元旦

朝倉市長

森田俊介

新年おめでとうございます。
市民の皆さまには、輝かしい新年を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

また、日ごろから市議会に対して、温かいご理解と協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年4月に実施された市議会議員選挙では、改選前の定数から2名減員した18名の議員が負託を受けました。これまでに上議員間の議論による合意形成と議決責任を果たすため機能強化を図る所存であります。

さて、全国的な傾向ではありますが、地方議会離れが進んでいると危惧されております。本市においても、前回の市議会議員選挙より投票率が7ポイント減少しており、同じ傾向にならないよう、昨年制定した議会基本条例を着実に実践し、分かりやすい議会の実現に努め、身近な議会運営を心掛けていく必要があります。今後とも議会報告会や議会懇談会を通じて、市民の皆さまとの信頼関係を確保していく取り組みを進めてまいります。

現在、地方版総合戦略の策定が急がれています。これは我が国の人口減少が進むことが、将来的に消費力や経済力の低下を招き、社会経済に大きな重荷となるため、朝倉市においても、人口ビジョンを踏

まえた総合戦略を着実に取り組むものであり、仕事で若者の流出をくい止め、ひとづくりで若い世代が安心して働き、子育てができる環境づくりが進展するよう、市議会としても十分に議論してまいります。

結びに市民の皆さまのご理解とご支援を心からお願ひ申し上げます。今年一年が皆さまにとりまして、健康で幸多い年となりませう、心よりお祈りいたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

平成二十八年元旦

朝倉市議会議員

浅尾静二

明けまして
おめでとうございます

朝倉市議会は、開かれた、分かりやすい議会を推進していくために議会報告会や議会懇談会を通じて、市民の皆様と多様な意見交換を行い、市政の充実に努め二元代表制の一翼を努めます。

新年にあたり皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十八年元旦

朝倉市議会議員一同

今年

申年



2016年は申年。

日本に生息しているのは「ニホンザル」。顔とおしりの赤い、おなじみのサルです。人間と同じ霊長類に属し、北は青森県下北半島から、南は鹿児島県屋久島まで生息しています。群れをつくり、木の上を得意とし、主に、果実や種子、花、葉などの植物や昆虫を好んで食べるようです。

ところで近年、野生のニホンザルを見る機会が多くなりました。観光用に餌付けされたサルが人前に現れたり、里に出て、人間にえさをねだったり、農作物を荒らしたり……。人間をこわがらず、時には、人に襲いかかったりすることもありますが。被害に遭っている地域では、いわゆる猿害対策が大きな課題になっています。日本人にとつてなじみの深いサルですが、お互いが敵対し合うのは残念なことです。猿害の防止を図りつつ、サルが将来にわたって自然の状態で生息していくこ

とができるよう、共生の道を探ってきたいものです。

サルは様々な昔話にも登場しますし、サルにまつわることわざや慣用語もたくさんあります。『さるかに合戦』ではサルは悪役でしたが、『桃太郎』や『西遊記』では、主人を支える名脇役として活躍しました。

ことわざで、だれもが知っているのは「猿も木から落ちる」。これは、その道にすぐれている人でも、時には失敗をすることがあるということのたとえ。「木から落ちた猿」は、頼みにするものを失ってどうしてよいかわからない状態のことをいいます。木の上を得意とするサルならはのことわざです。

同じくサルの特徴をよくとらえたことわざといえば、「猿の尻笑い」。自分の尻の赤いことに気がつかないで、ほかの猿の尻が赤いことを笑う意味で、自分の欠点に気がつかず、他人の欠点を笑うことのたとえです。そのほか、「サルまね」「サル知恵」「サル芝居」などの言葉がありますが、どれもあまりいい意味では使われていません。

そもそも「サル」＝「去る」というイメージがよくないのででしょうか。「去る」は「去る」でも、悪運だけは去ってほしいものです。

未来に誇れる ふるさとづくりを

